

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1491000285
法人名	有限会社 リラ福祉サービス
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所 こすずめの里
訪問調査日	平成24年2月17日
評価確定日	平成24年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491000285	事業の開始年月日	平成22年6月1日
		指定年月日	平成22年6月1日
法人名	有限会社 リラ福祉サービス		
事業所名	小規模多機能居宅介護事業所 こすずめの里		
所在地	(245-0063) 神奈川県横浜市戸塚区原宿2-6-7		
サービス種別 定員等	☒ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25 名
		通い定員	12 名
	☐ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	7 名
		定員 計	名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・四季折々の季節を肌で感じられるよう、月1回以上の外出レクリエーションをとりいれている。 ・地域の行事には、参加できるよう配慮している。 ・ボランティアの方々によるフラダンスやマジックショー等の行事をとりいれ、楽しむことができる。 ・ご利用者様の生活のペースを保ち、デイサービス、ショートステイ、訪問介護を組み合わせて利用することができる。 ・通院介助、買い物等の送迎を行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Y ビル2F		
訪問調査日	平成24年2月17日	評価機関 評価決定日	平成24年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①経営母体は(有)リラ福祉サービスである。リラ福祉サービスは小雀の地にグループホーム、居宅支援事業所、訪問介護事業所の開設からスタートし、平成22年にこの小規模多機能型居宅介護事業所「こすずめの里」と併設の有料老人ホームを、平成23年にサービス付高齢者向け住宅「ひだまり荘こすずめ深谷」を展開している。地理的には国道1号線戸塚原宿交差点四つ角から2軒目の場所にありながら、国道と反対側に入口があり、玄関附近は国道の喧騒が嘘のように静かで落ち着いた雰囲気である。ケアの考え方は個別ケア、理念は「利用者が主役、スタッフは伴走者」であり、ケアは「家族の目線」で「目配り、気配り、心配り」を心がけ、「スタッフ自身が 入居願望の湧く」ケアを目指している。 ②開設が一昨年6月で、開所後1.5年経過し、スタッフも定着し、特にもともとと訪問介護のノウハウがある点から在宅支援の面での充実が進んでいる。このリラ福祉サービスでは特に子育て支援に重点を置き、子育て中の主婦が子育てを無理なく行いつつ業務が行えるよう配慮した人事管理が徹底されている。小規模多機能型居宅介護ではご家族の状況の把握が大切であり、その為にスタッフの介護力を高めることが重要である。研修は、理念を十分に把握し、小規模多機能型の特質を勉強し、巾のある支援を提供出来るよう進めている。施設や居宅支援、訪問介護のケアマネさんにも小規模多機能型の特質を理解して頂く努力も続けて行く。 ③介護計画作成については、ケアマネを中心に個人別の援助の状況を把握し、カンファレンスでアセスメントを行い作成している。介護計画を中心に確かなものをサービス出来るよう整理を進めている。運営に事務スタッフの必要性を感じていち早く設置し、介護のベテランである管理者他が介護に集中できるようにした。業務を事務スタッフに集中することで運営体制が安定したこともスタッフの定着に寄与している。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り、研修で理念を確認し、個々が認識、実践することで共有へとつながっている。	理念は「利用者が主役、スタッフは伴走者」であり、ケアは「家族の目線」で「目配り、気配り、心配り」を心がけ、「スタッフ自身が 入居願望の湧く」ケアを目指している。朝の申し送り、研修で理念を確認し、個々が認識、実践することで共有へとつながっている。職員の意識と行動指針は全ての職員が「信じあい」「支えあい」「高めあう」仲間であるよう定めている。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加したり、他のグループホームへの行事に参加し、楽しんでいる。地域のボランティアの方々によるマジックショー等をご覧になり、一緒にお茶を楽しんでいる。	町内会に加入し、地域の祭りに参加したり、原宿の会の獅子舞を見たり、他のグループホームへの行事に参加したりして楽しんでいる。町内会で小規模多機能の紹介をして欲しいとの依頼もある。ボランティアに来て頂ける方も定期で4～5人はあり、ボランティアの方々によるマジックショー等を一緒に見て、一緒にお茶を楽しんでいる。利用者の関係からの紹介等で見学の希望は多い。学童保育との繋がりがあり、子育て中の職員の応募が多い。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時・学童保育の地域行事に積極的に参加し、ご利用者様との交流を支援している。運営推進会議で地域の方々に認知症についてのパンフレットを配布し、理解・支援を頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月・8月の2回実施。活発な意見交換ができ、理解しあえる場として、サービスの向上につながっている。	運営推進会議は6月・8月の2回実施した。メンバーは町内会役員（数名）、民生委員、地域包括支援センター、ご家族それに施設関係者で、同じ経営のグループホームと共催で実施している。活発な意見交換ができ、理解しあえる場として、サービスの向上につながっている。スタート段階では小規模多機能の説明と告知を実施した。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域包括支援センター・横浜市健康福祉局高齢施設課・神奈川県保険福祉局高齢施設課・障害サービス課とは連携があり、サービスの向上に取り組んでいる。	戸塚区高齢支援担当者・原宿地域包括支援センター・横浜市健康福祉局高齢施設課・神奈川県保険福祉局高齢施設課・障害サービス課とは連携があり、サービスの向上に取り組んでいる。サービス付高齢者向け住宅「ひだまり荘こすずめ深谷」の設立もあって関係はより深まっている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が正しく理解できるよう、研修を実施し検討している。玄関の施錠は閉めていない。ベットサイドレールはしない個所（緊急時危険が伴う時はご家族様に許可を頂いている）	身体拘束については研修を実施し、職員全体が正しく理解できるよう努めている。玄関の施錠は閉めていない。見守りについては、職員が気を付ける他、事務職員、送迎の運転手（玄関に待機）なども注意している。ベットサイドレールはしない方針であるが、緊急時危険が伴う時はご家族に許可を得るようにしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持ち、職員全員が正しく理解し、認識を高め防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を持ち、職員全員が正しく理解し、認識を高め防止に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、不安や疑問点を持たないよう十分な配慮をし、ご家族様のご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来里された際等、近況報告と共に、意見や要望等をお話できる環境を作り心をかけ対応させて頂き、職員で情報を共有している。	ご家族の意見、要望は送迎時や連絡ノート、こすずめ便りでお知らせするとともに、来訪された折に近況報告と共に、意見や要望等をお話できる環境を作り心をかけて対応し、職員で情報を共有している。利用者の記録には出来るだけその人の言葉を括弧書きで記録し、こすずめ便りにもその人の言葉を書くようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ワーカーズコレクティブに近い運営で集会は設定していないが、出勤記録を提出の際に記入できる。折に触れ問いかけて反映させている。	ワーカーズコレクティブに近い運営で集会は設定していないが、意見は出勤記録を提出の際に記入できるようにしている。また折に触れ問いかけを行い職員の意見を聞き反映させている。この小規模独自の流れを作り（ワーカーズコレクティブの個人ノウハウの集合体）こすずめの里方式の確立を目指している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士法人エールと契約し、労務環境を整えている。処遇改善交付金一部もこれにあてている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「主婦が階段を昇れる職業である」と言い続けている。（3年介護福祉士→5年ケアマネジャー社会福祉士等）研修参加は申し出により自主性を重んじ強要はしていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修会・相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくと時間をかけ、ご利用者様の不安や要望等の話を聴き、ご本人様が安心できる関係づくりに努力している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと時間をかけ、ご家族様等の不安や要望等の話を聴き、ご家族様等が安心できる関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カウンセリングの勉強をし、初期対応の見極めができるよう他のサービス利用の対応も含め努力している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は過去の生活記録を共有し、人生の先輩としてご利用者様に接している。掃除等、一人一人出来る事に参加して頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を優先し、行事・買い物送迎等の際には、ご家族様が参加頂けるよう声かけをしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若いころのサークル等の友人が来里され、マジックショーを披露してくださったり、手紙や電話等、途切れる事のないよう支援している。	若いころのサークル等の友人の訪問（マジックショー等を披露してくれた）、近所の方が訪問、知人のボランティアの来訪の他、手紙や電話等、途切れる事のないよう支援している。自宅にいて、馴染みの人や場との関係を継続しつつ、ここでも多くの方と触れ合えるのが小規模の最大のメリットである。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、ご利用者様の交流を支援し、支えあえるような関係に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談を受け対応し支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	デイサービス等の時間を決めることなく、ご本人様の意向に合わせた支援に努めている。	デイサービス等の時間を決めることなく、本人の意向に合わせた支援を行っている。本人の言葉は「 」付きで個人記録に記載し、連絡ノートにも書いてご家族にもお知らせしている。利用者で「自宅にいるより、ここに居る方が良い」と云う利用者もいる。ご家族も協力的で、小規模を評価し周りにも進めてくれている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報を共有し、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員と話し合い、意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成し、月1回のモニタリングを実施している。	本人・家族・職員と話し合い、意見やアイデアを出し合いながら、現状に即した介護計画を作成し、月1回のモニタリングを実施している。介護計画は先発しているグループホームのフォーマットをベースとして小規模に合った形のものを活用している。ご家族の意見、要望については送迎時、訪問介護時などにお伺いし介護計画に反映するようにしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録を毎日記入し、日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を毎日の申し送り等の際に共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じたサービスを組み合わせ、ご家族様のけが等によ急なショートにも柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣にボランティアでマジックショーを披露して下さる方々、学童保育での祭りの参加の呼びかけがあり、楽しむ場を提供して下さり支援がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望される医療機関にかかり、通院介助の依頼時には同行させて頂き、主治医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。	本人・ご家族の希望する医療機関にかかり、通院介助の依頼時には同行させて頂き、主治医との関係を築き適切な医療を受けられるよう支援している。同行する通院介助を希望される場合は、通院可能な近い医療機関に変えて頂くようお願いしている。ホームへの往診の先生も設定している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わり等の中で、介護職員は気づきを看護師に伝え相談している。看護師も健康状態を本人やスタッフに確認しながら、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、安心して治療をして頂き、病院関係者やご家族様と情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・本人・家族と繰り返し話し合いを行い、できることを十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援している。	主治医・本人・家族と繰り返し話し合いを行い、できることを十分に説明しながら方針を共有し、チームで支援している。特に終末期に近づいたら病院、特養も視野にいて方向性を決める予定にしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	戸塚消防署より来て頂き、防災指導を含めAEDの使い方、救命処置・止血法・応急担架の作り方・搬送方法等をご利用様と一緒に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者様、職員共に避難訓練を実施している。又、ヘルメット・非常食料備品等の備蓄をしている。	利用者、職員共に避難訓練を実施している。又、ヘルメット・非常食料(3日分位)等の備蓄をしている。近くに本部、先発のグループホームこすずめの里があり相互に助けあえるのも強みである。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格・生活歴を尊重し、誇りやプライバシーを尊重した対応を心がけている。言葉づかいに気をつけ対応している。	一人一人の人格・生活歴を尊重し、誇りやプライバシーを尊重した対応を心がけている。特に言葉遣いに気をつけ、対応している。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が意思を伝え、選択がしやすいよう話しかけを心がけている。意思を表しにくいご利用者様には、ゆっくりと選択出来やすいよう話しかけ自己決定できるよう心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞・読書等一人一人のペースを大切に強要することなく、ご本人様の希望にそった支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により、訪問美容による散髪を行っている。化粧品等の買い物同行による支援をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつのでんぱん作り等、共同制作し楽しみながら関わられるように支援している。	代表は栄養士であり、メニュー作成をしてくれている。会長が車で仕入れをしてくれる。食事はスタッフが交代で作っている。利用者にはおやつのでんぱん作り等、共同制作を週1～2回、楽しみながら関わられるように支援している。食事準備のお手伝いもお願いしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を一日を通じ確保できるよう声を掛け、嚥下状態の良くない方には、とろみをつけ摂取して頂いている。食事等一人一人の状態等に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけでできる方でも、職員ができるだけ関わらせて頂き、清潔を保つよう心がけている。各自の状態にあわせたケアを行い、義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけをし、トイレでの排泄に力を入れ自立支援を心がけている。排泄意思のない方でも、便座に座って頂き、排泄を促させて頂いている。	声かけをし、トイレでの排泄を促し、自立支援を心がけている。排泄意思のない方でも、便座に座って頂き、排泄を促させて頂いている。重い方でも時間を見計らって誘導し、自分で出来た満足感を持って頂けるよう支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認を行い、マッサージをしながら排便・排尿週間を心がけている。毎日、朝・夕の体操に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルチェックを行い、無理強いすることなく、ご本人様の希望に合わせた入浴ができるようにしている。	バイタルチェックを行い、無理強いすることなく、本人の希望に合わせた入浴ができるよう支援している。認知症が進むにつれて拒否が多くなるので、直接的に「お風呂」と言わずに「こちらへどうぞ」と、さりげなく誘導する等、工夫している。お風呂は3方向が開いた使いやすい方式で、リフトも設備されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息等を望まれる方は、声を掛けて下さり、状況や状態により声を掛けさせて頂き対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	リーダーは服薬管理をしており、目的・用法等について服薬説明書は全職員がわかるようにし、服薬の支援と症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を發揮していただく誕生日会等、楽しみながらのケーキ作り等支援を心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩の時間を設け、ご利用者様に声かけをしている。月1回以上の外出レクリエーションでご家族様の協力を仰ぎながらバラ園等に外出している。	天気の良い日には、散歩の時間を設け、利用者に声かけをしている。月1回以上の外出レクリエーションでご家族の協力を仰ぎながらバラ園、フラワーセンター、買い物に湘南台等に外出している。ショートの方には優先的に散歩に出て頂いている。リハビリマシンを置き、朝夕筋肉トレーニングも実施している。水泳教室のトレーニングも取り入れたいと考えている。マッサージも訪問があり、希望者が活用している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等、同行させて頂き、ご本人様に清算して頂き支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投稿等散歩をしながら出かける。友人・家族からの電話の取り次ぎを支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダイルールの壁には、季節感いっぱいのご利用者様手作りの壁絵を貼り、植物を置いている。湿度等適度に保ち、居心地良く過ごせるよう工夫している。	ダイルールの壁には、季節感いっぱいのご利用者の手作り壁絵を貼り、観葉植物を置いている。湿度等適度に保ち、居心地良く過ごせるよう工夫している。本来は認知症が強い方との間に観葉植物を置きたいと考えていたが、リビングが狭く実現できなかった。手作り壁絵作成時はパーツにばらして、後で纏める方式で行っている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者様同士の席順等を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた書物等を持ち込み、居室にハンガーや椅子等を置く等の工夫をし、居心地良く過ごして頂けるように努めている。	本人の使い慣れた書物等を持ち込み、居室にハンガーや椅子等を置く等の工夫をし、居心地良く過ごして頂けるように努めている。作品や写真も掲示している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、洗面所、浴室等手摺を使用して頂いている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能型居宅介護事業所
こすずめの里

作成日

平成24年2月17日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	21	利用者様同士の関係支援	今、利用者様が望まれることを把握し、より深い交流の支援をする。	利用者様の話により深く耳を傾け、申し送り等・日々のスタッフ間同士の情報・共有につなげる。	一年間
2	4	運営推進会議の実施が定期化されていない。	運営推進会議を定期化する。	地域の方々・ご利用者様のご家族様等に文書にて案内を送付し、実施日には次回開催日もお知らせする。	一年間
3	13	介護経験の長い職員と短い職員が同じ業務に就いている。	皆で話し合い、考えて作る職場づくり。	現場に即したルールを作りをし、全スタッフとの研修の時間を作る。	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

